

1-3. 公共交通の充実

(1) 現況と課題

本町では、JR宇都宮線が町西部台地を縦断するとともに、宝積寺駅から分岐するJR烏山線が中央部を横断しています。これらの鉄道及び3ルートの民間路線バス（杉山線・元気あっぷむら杉山線・氏家駅喜連川線）と町有バス（福祉バス、元気あっぷ巡回バス）の運行により、本町の公共交通が形成されています。

鉄道は、本町と宇都宮市や首都圏を結ぶ基幹的交通機関であることから、利便性や快適性をさらに向上させる必要があります。本町では昭和60年から烏山線利用推進沿線3町連絡会に加入し、JR烏山線の利用促進に取り組んでいますが、さらに、町民の通勤・通学が便利になるよう、鉄道事業者に対して早朝深夜の増便を働きかける必要があります。

民間路線バスに関しては、利用者が減少し赤字路線になっているため、運行補助を行い維持に努めていますが、便数が減少して利用しにくい状況です。

また、公共交通については、高齢者等のいわゆる交通弱者と言われる方々が利用しやすく、親しみの持てるあり方を研究していかなければなりません。

なお、県央地域における新交通システム*導入促進協議の動向によっては、公共交通システムの見直しも必要になります。

(2) 5年間の政策目標

- ①高齢者等交通弱者が利用しやすい公共交通を実現します。
- ②公共交通を充実させ、広域的な交通アクセス性に優れたまちを実現します。

(3) 施策

1-3-1. 公共交通システムの体系化と運用

民間路線バス、元気あっぷ巡回バス、福祉バス、さらに児童送迎用バス等を含めた公共交通に関する基礎調査を平成18年度に実施します。その結果を踏まえ、町内の公共交通システムを体系化した運行計画を策定し、平成21年度から運用します。

運用に当たっては、町内の主要施設やJR3駅、病院等の医療機関等を有機的にリンクしたもの、高齢者等の利便性がより向上するものとします。なお、策定にあたっては、現行の児童送迎バスとの併用、バス利用不便地域の対策等、町内の交通を総合的に検討します。また、運営主体・運行主体・運行形態等については広範な角度から検討し、利用者の利便性と経済性に優れた、効率的かつ効果的な運営を実現します。

指標	平成16年度	平成22年度
公共交通システムの年間利用者数 (※) (単位:人)	37,500人	41,700人

(※平成16年度の数値については、現行の元気あっぷ巡回バス、福祉バス、児童送迎バスの利用者数をカウントしています)

【事業】

- 公共交通システムの体系化と運用
 - ┆公共交通システム整備費
 - ┆公共交通システム運用費

【関連施策】

- 1-1-3 宝積寺駅及び駅周辺整備事業

1-3-2. 民間生活路線バスの維持確保対策

現行の民間路線バスの運行に関しては、県及び関係市町と協調を図りつつ運行補助を実施していますが、路線や便数が削減されている現状を鑑み、路線バスの必要性について広域的な視点から検討を加え、新たな運行形態を研究していきます。

(4) 効率化目標

①利用者の利便性向上に向けた取組み

利用者の利便性を考慮し、公共交通システムの運用による走行距離数増加に努めます。

指標	平成 16 年度	平成 22 年度
公共交通システムの走行距離数 (※) (単位：km/月)	2, 200 km	4, 400 km

(※ 平成 16 年度の数値については、現行の元気あっぷ巡回バス、福祉バス、児童送迎バスの走行距離数をカウントしています)

(5) サービス向上目標

- ・公共交通システムの運行計画策定にあたっては、運行経路及び本数、時間を利用者の視点に立って検討します。